……

ほ…ほたるちゃん

ぼ、ボクと……

付き合ってください！

私と…？

…はい

プル
プル
ありがとう勘太君
嬉しいわ
それじゃあさ…
勘太君が今より大きくなってその時、まだ私の事を想ってくれてたら
その時また告白しに来てくれる？
え…？

今じゃ・・・ダメなの？

僕、ダメなの？

ううん、ダメじゃないわ

勘太君にはさ
もっといろんな女の子と知り合って
いっぱい恋をして欲しいの。

たくさん恋を・・・？

そう

その上で、まだ私の事を
想ってくれてたら・・・って事よ

わかるかな？

うん！わかる！
でも僕、絶対にずっと
ほたるちゃんの事、好きだよ

！
ボクのこの気持ちは――！…

この気持ちは…
？

勘太君？
どうしたの？

あ…いやぁ
うん

僕のこの気持ちは…
じゅんすい…だから！

あっいけね！店の手伝いあるんだった

そう

じゃあねほたるちゃん

うん、またね勘太君

……。

私…初めて貰っちゃった…

男の子からのラブレター…

ラブレター…私が？

ポッ

嬉しいかも

この気配・・・！

淫獣！

ギュ

ビキ

ビキ

ビキ

ビキ

ブブ

ホ…ト

ホ…ト

ブス

不意打ちなんて卑怯な手段
私には通じないわ！

ブス

ヒラヒラ

それは?!

盗まれた…?
いつの間に!

かっ…返して!

私の手紙!

あなたが触らないで!

ド!!

!!

7.

メキッ

あ…ぐう

かっ…

ハ…

んぐう…

ちょっ…
ちょっと！
しまった！
足を掴まれたら
武器を拾いにいけないわ…
ニュル
ニュル
ガシ
ガシ
ヂュ
ヂュ
ヂュ

ブ…

ぬるり

ピチャ

ピチャ

あれは……

洗脳線虫！

たしか口から体内に植え付け寄生させ宿主を淫獣の眷属にする生物

防がなきゃ……

植え付けられるわけにはいかないわ！

えっ？

そっちは・・・

ま・・待っ――

ズイ

ギチッ

あっ・・・・

あああっ！

プチ

プチ

ズプププ

淫獣の触手に処女を散らされた
セーラーサターン

ン・・ンッ

アッ

入って・・・

来ない・・で

ビクン

ズプ

ジュプ

処女の膣の抵抗など構う事なく
触手は無遠慮に突き進み
破瓜の痛みと異物感がセーラーサターンを
貫いた・・・。

ズプ

プチ

プチ

ギッ

ギチ

やっ・・・

奥ま・・でッ

・・来る

ヌプ

クチュ

ズプ

触手の表皮から粘液が分泌され
次第にサターンの膣口はぬめり
抵抗なく触手を咥え込んでゆく…

はやく…
抜かないと…

植え付けられちゃう

ギシ

ギシ

ズブ

ミシ

ピュ
ピュ

なに…？
この感覚…

身体が…熱い

く…ふっ

ずらされた下着の隙間から
溢れる破瓜の血と触手の
粘液が溢れ滴る…

チュク

ジュク

ドクン
ドクン
ドクン
ブシュ
ドプ
いやあぁぁぁぁ！
太い触手は脈を打ちだし
その鼓動に似た脈打ちに合わせて
触手は膨らみ、膣口も膨らみに合わせて
大きく開く・・・

子宮に達していた
触手は吐き出す・・・
洗脳線虫を。
大量の線虫が
淫獣の体内から少女の体内へと
流れ込む

ピュピュッ
ニチャ
ウネ
ウネ
ウネ
線虫の塊をサタターンの膣内に植え付けた。
蠢く線虫は宿主の身体を巡る寄生し汚染する。

キュン

体内の奥深くサターンの様々な
細胞や臓器に線虫が寄生し始める…
その全身を巡る奇妙な感覚がサターン襲う。

グム

クッ

線虫は宿主に発情を促す
粘液を注入しながら寄生する。
宿主の体温から発情の具合を観察しながら
粘液を分泌する。

そして絶頂を迎えた時…
つまりイッた時、それは淫行の顕現である淫獣に
心を開いたとされ精神を支配されるのである。

ビクッ

ん……く

はぁ

はぁ

ビクッ

か…勘太君に
こんな姿、見せられないわ。

負け…ない

ムクッ

私は負けられない

勘太君がラブレターを書いてくれた…

ハァ

ハァ

ジュク

好きになってくれたのは
こんな私じゃないわ。

こんな…
変な疼きになんて…負けない。

ヤバッ

触手に再び股を大きく開かされたサターン。
スカートがめくれ愛液と粘液で濡れ
火照った秘部が外気に晒され
冷たい空気が撫でる。

きゃっ！

にゅる

敏感になったサターンのクリトリスに
細い触手が器用に秘部へと伸びる…

や…

待っ――

コリ

アッ・・・

ビクン

グシャ

んんんっ――――！

ビクン

プシャァァァ

秘部を刺激され全身に快楽が駆け巡り
愛液を吹き出しながら絶頂を迎えてしまった。
蕩ける様な快楽が全身に流れ込み
そのまま意識が薄くなってゆくのを感じた・・・
彼女が覚えているのはそこまでである。

快楽に屈し握りつぶされた手紙。
その内容に込められた
純粋な少年の恋心と共に・・・・

ふふっ♪

ほたるちゃん

もう僕の手紙読んでくれたかな？

快楽に溺れ自慰に浸るサターン
もう彼女は淫行に耽ること以外はしない
痴女に成り果てていた・・・

んんっく

んくっ

じゅぽ

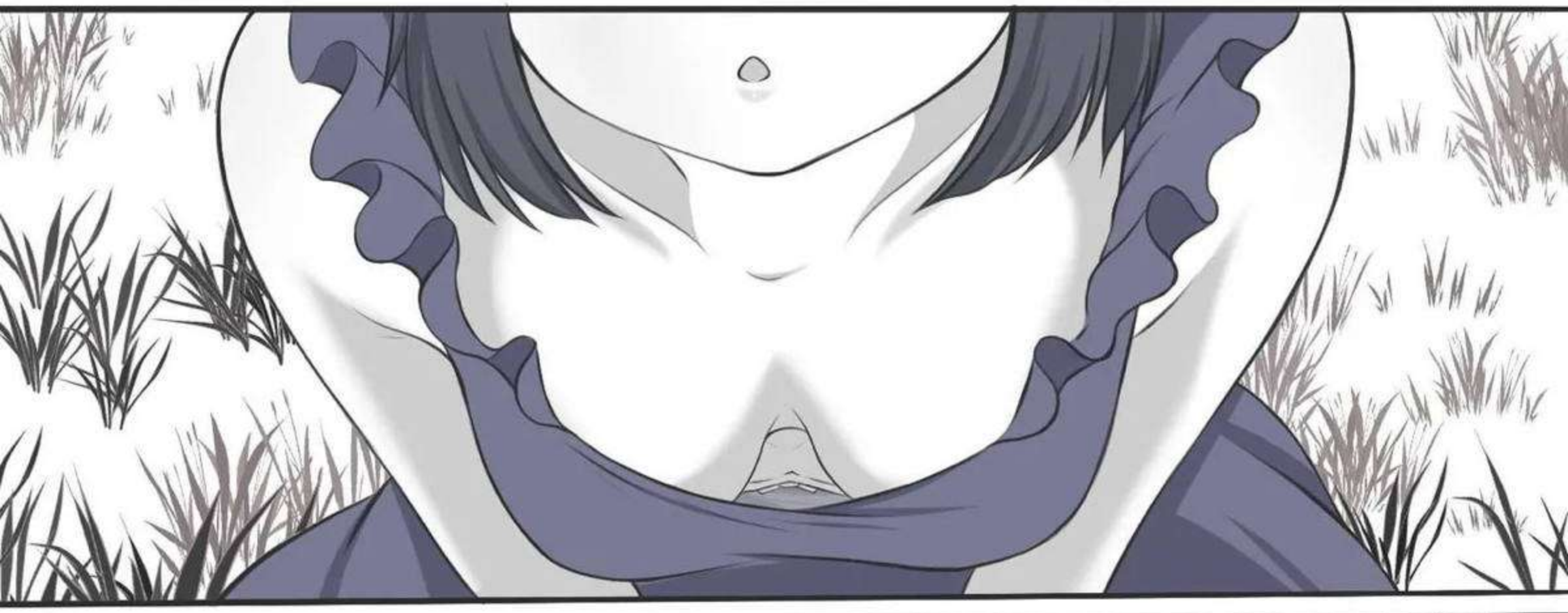
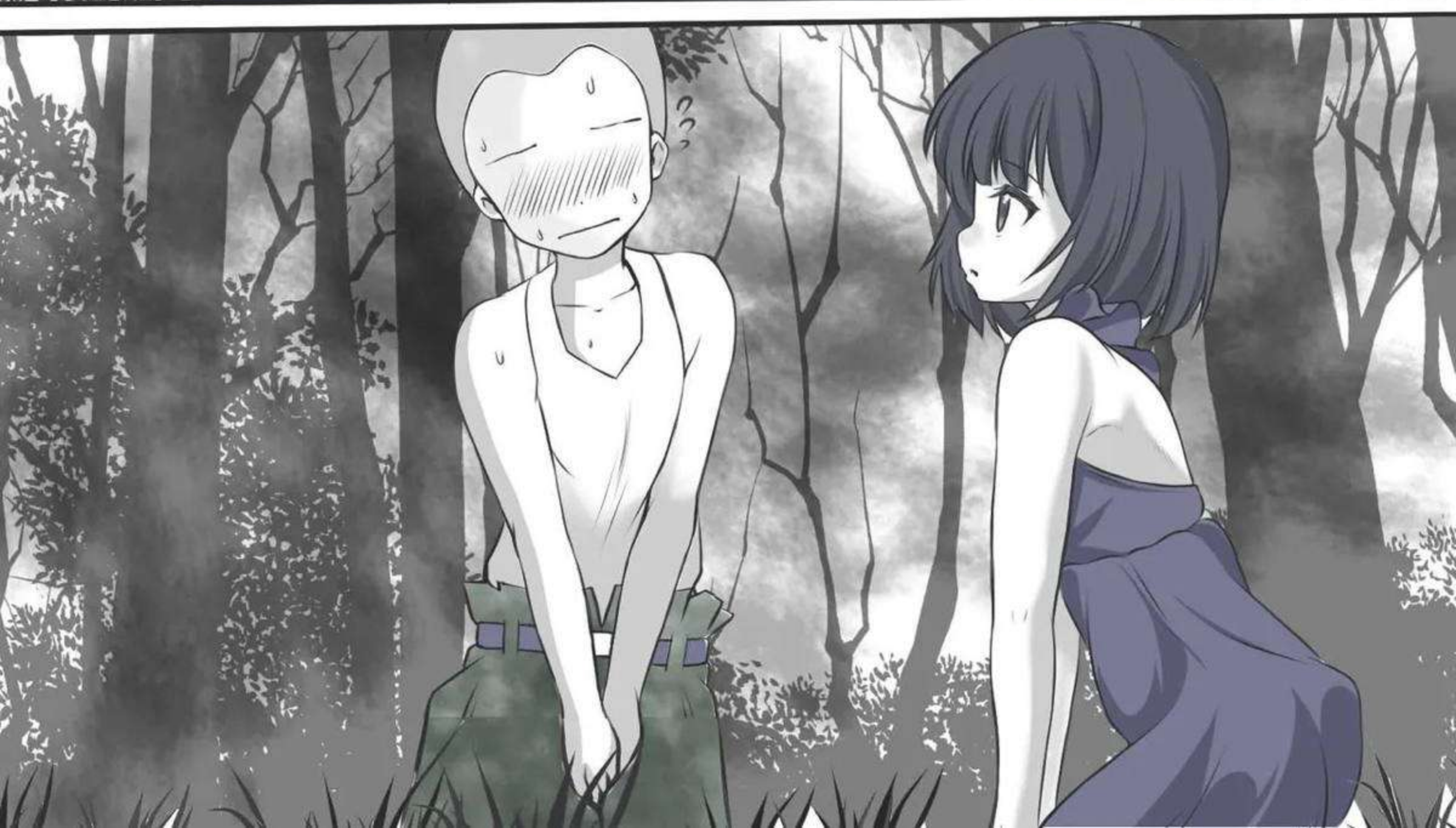
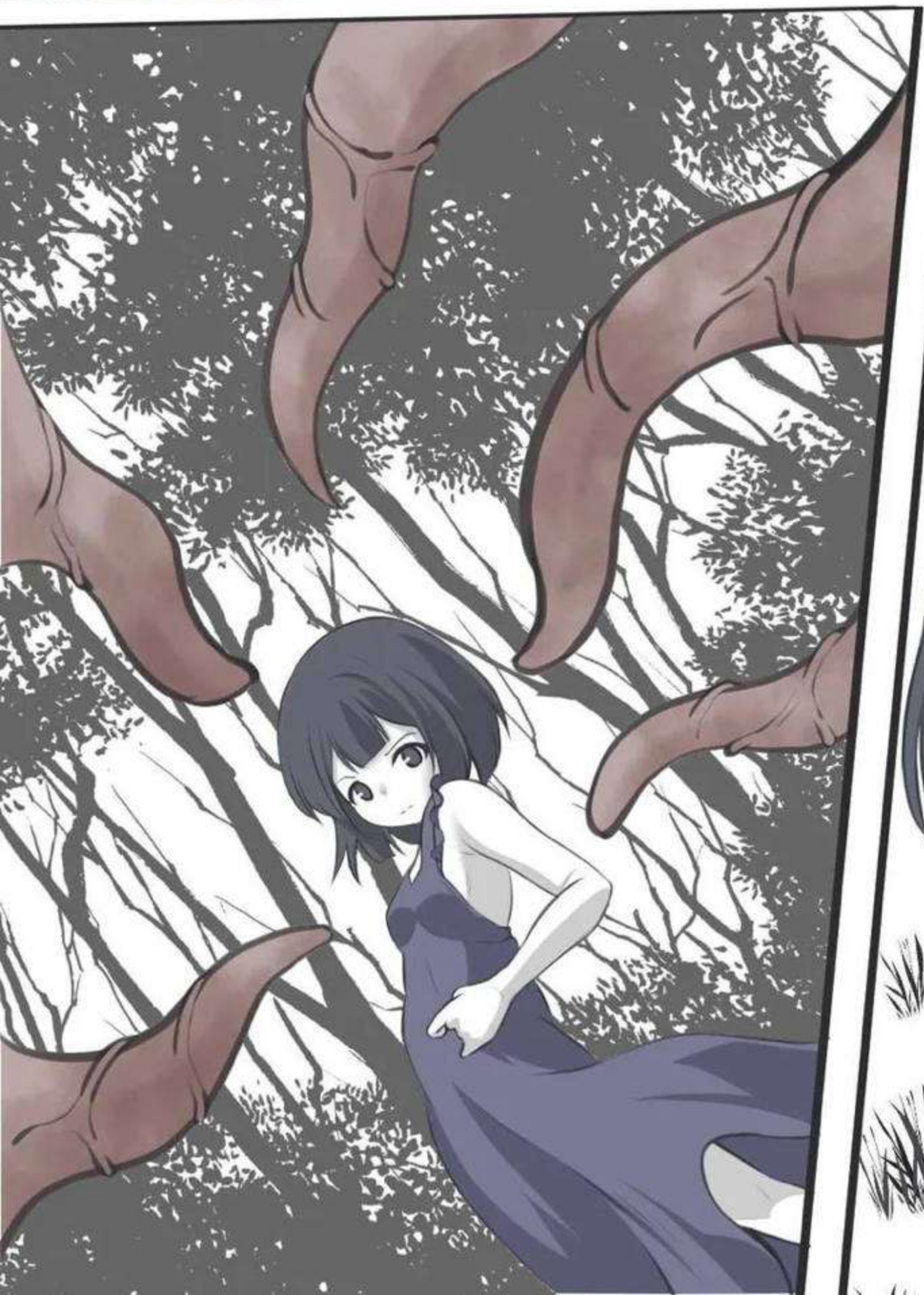
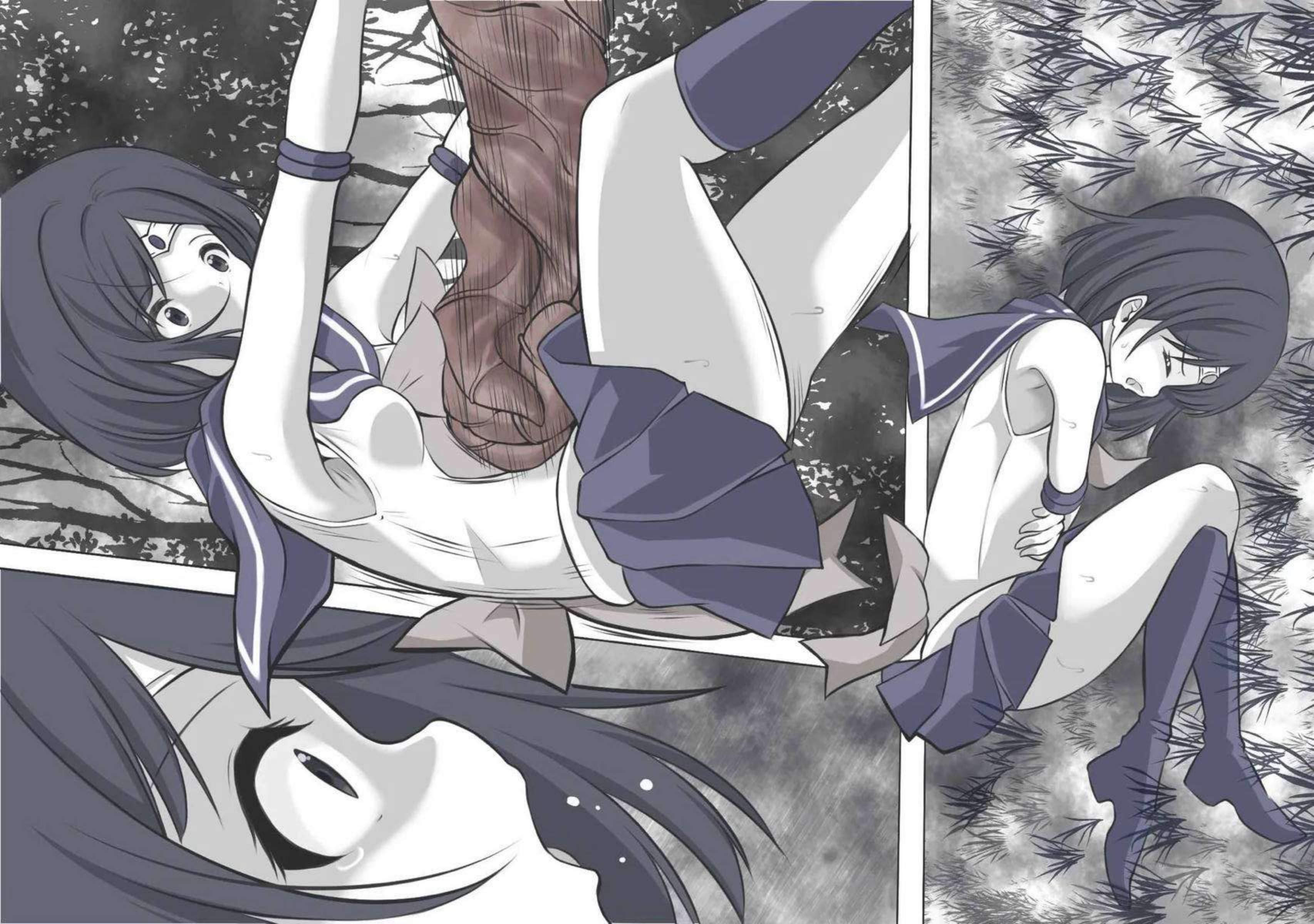
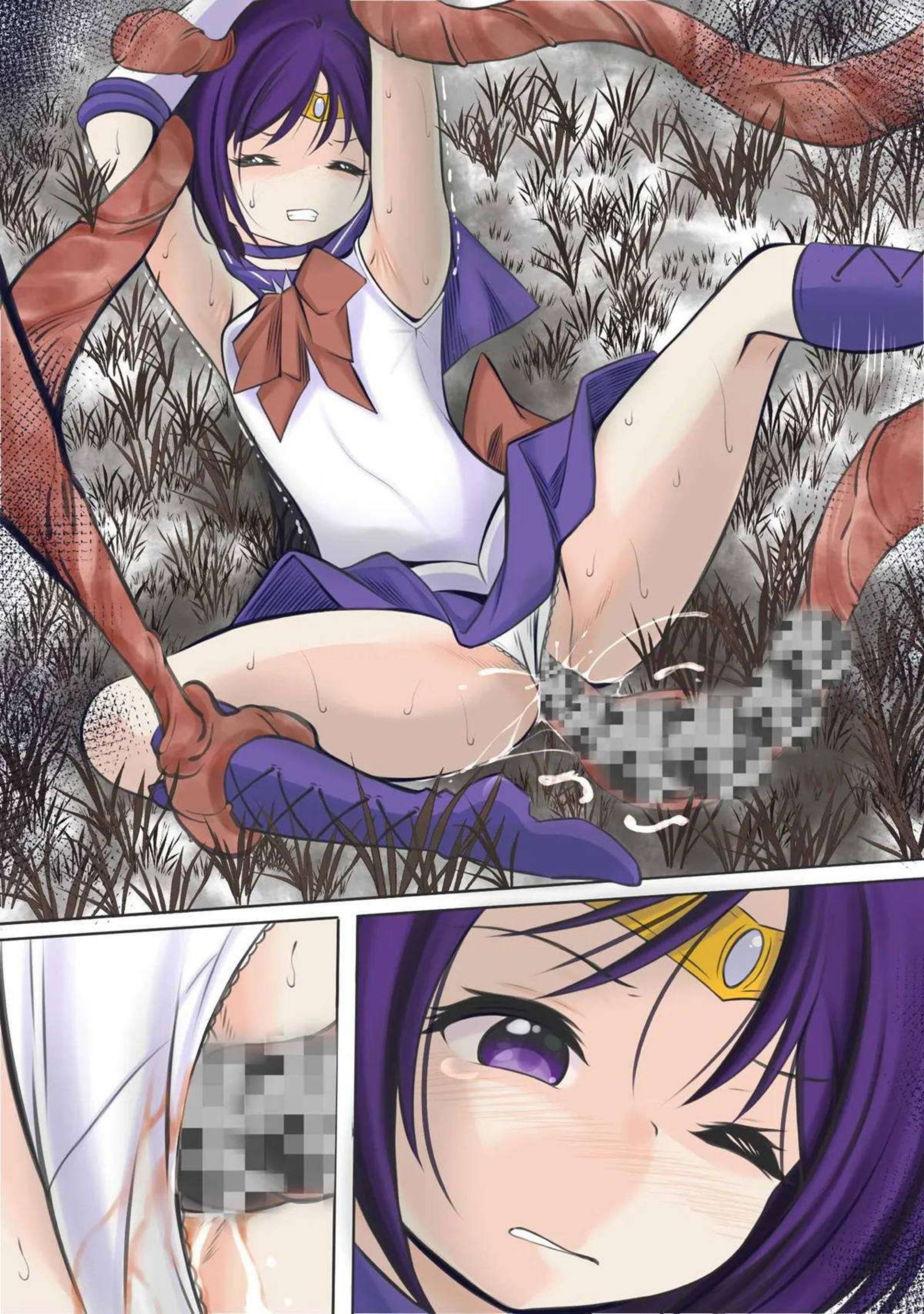
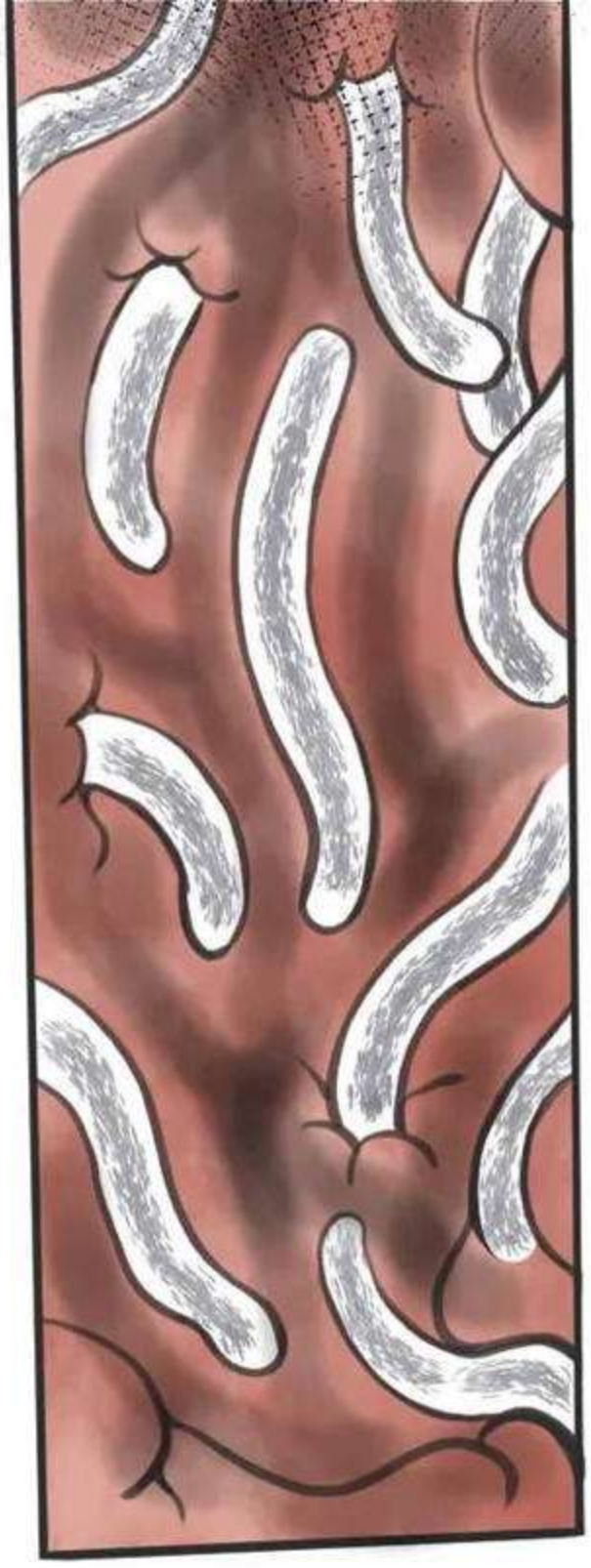
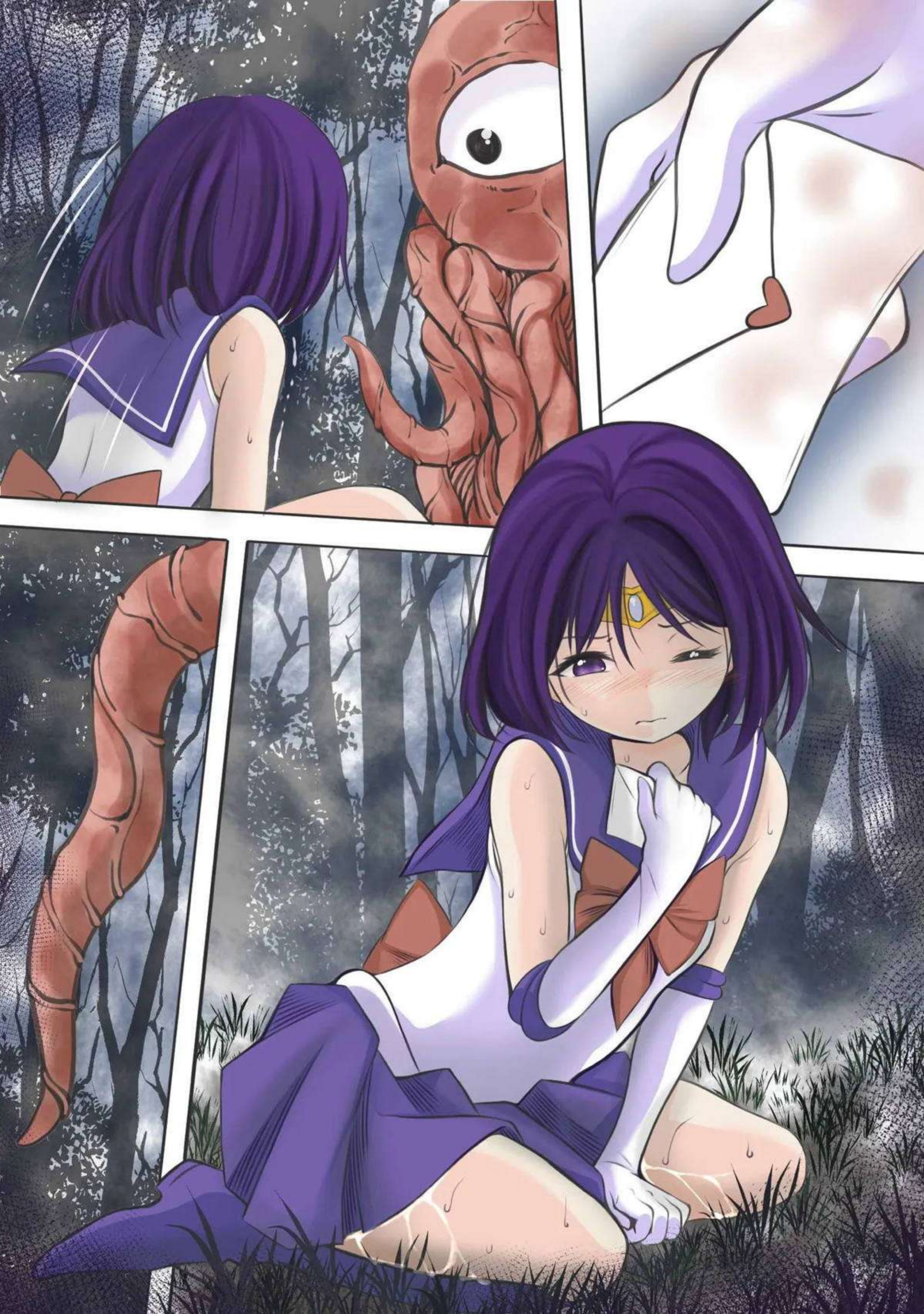
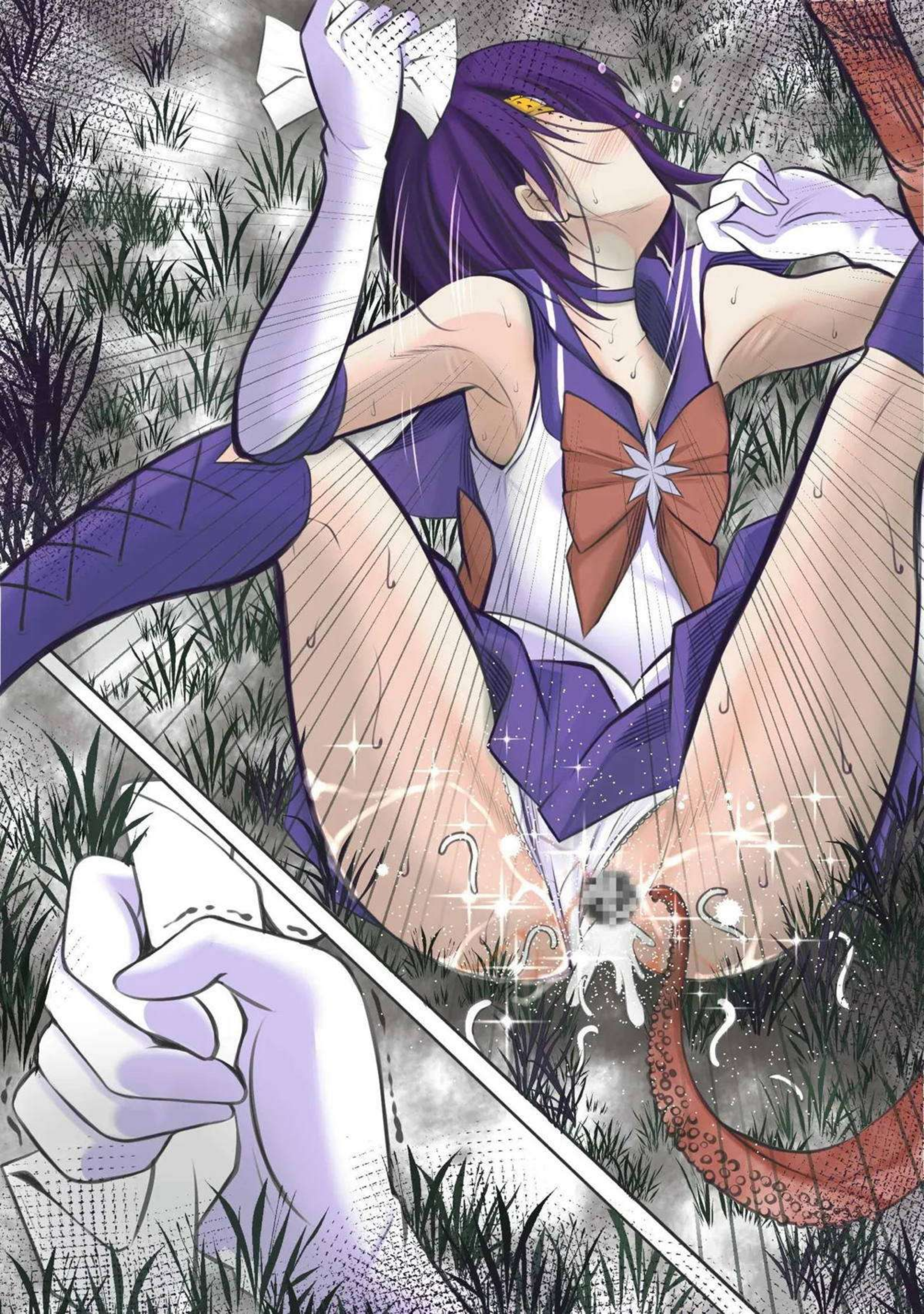
くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

少年が恋心を抱いた可憐な少女の姿は無く
発情させられ肉棒を欲する淫獣の眷属がそこにはいた。
溢れすぎた愛液を拭うのにちょうど良かった紙があったので
存分に使った・・・
少年からのラブレターだったとはもう彼女にはわからない。

終